



国指定天然記念物「^{むくもと}椋本の大ムク」の後継樹が里帰り
—^{りんぼく}林木遺伝子銀行 110 番による樹木の増殖サービス—

ポイント

国指定天然記念物「椋本の大ムク」(三重県津市)の後継樹の苗木が、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 ^{りんぼく}林木育種センター 関西育種場から里帰りします。

概要

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター関西育種場(岡山県勝田郡勝央町)では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保全を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業の一環として、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存と併せて、所有者等の要請により後継樹を増殖するサービス「林木遺伝子銀行 110 番」を行っています。このサービスを利用した椋本神社 宮司 駒田氏からの増殖の要請を受け、国指定天然記念物「椋本の大ムク」の後継樹としてつぎ木増殖し育てた苗木が里帰りします。

○里帰り日時及び場所 日 時：令和 4年1月13日(木曜日)午前10時～(雨天決行)
場 所：三重県津市芸濃町椋本 椋本神社

○里帰りする苗木本数 つぎ木増殖苗 3本

お問い合わせ先

○国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 関西育種場
(平日 8:30～17:15)

事業責任者：遺伝資源管理課 課 長 坂本 庄生(さかもと しょうき)

担当者： 収集管理係長 山本 あゆみ(やまもと あゆみ)

広報担当者：連絡調整課 連絡調整係長 林 勝洋(はやし かつひろ)

Tel : 0868-38-5138 Fax : 0868-38-5139

○椋本神社

担 当 者：宮司 駒田 良介 ※お問い合わせは関西育種場までお願いいたします。

本資料は、三重県政記者クラブに配付しています。

背景

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。

このため、関西育種場では、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱しているこれら樹木の後継樹の苗木を増殖し、里帰りをを行うサービス「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。当育種場では令和 2 年度までに 98 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました。後継樹の苗木は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていますので、二代目として成長することが期待されます。

内容

今回里帰りする後継樹の親木は、津市芸濃町にある棕本神社の国指定天然記念物「棕本の大ムク」です。樹齢 1500 年以上とされるムクノキの大木で、嵯峨天皇（在任 809-822）の頃、征夷大將軍 坂上田村麿呂の家来、野添大膳父子がこの地に逃れた時に、巨大な棕の木の下に草庵を作って住んだと伝わり、このムクノキが棕本という地名の発祥となりました。明治 3 年に台風で大きな枝が折れてしまったものの、現在も堂々と立派な姿をしています。

関西育種場では、林木のジーンバンク事業として、天然記念物等文化財に指定された名木や絶滅に瀕している種等の貴重な林木遺伝資源の保全を図るため、それら樹木から枝を採取させていただき、つぎ木等により増殖した親木と同じ遺伝子を持つ苗木を保存園に植栽しています。その事業の中で、棕本の大ムクから令和 2 年 2 月に枝を採取し、同年 5 月につぎ木を行ったところ増殖に成功し、令和 3 年 3 月保存園に苗木を植栽しました。

棕本の大ムクは相当な高齢木であり、近年多発する異常気象等により被害を受ける恐れもあり、後継樹があれば良いと考えておられた棕本神社宮司 駒田氏より令和 2 年 10 月に林木遺伝子銀行 110 番の利用申請がありました。そこで、野外に植栽しても生育できる見込みがある苗木 3 本を令和 4 年 1 月 13 日に里帰りさせることとなりました。

写真等

「棕本の大ムク」からつぎ木増殖用の枝を採取する様子



里帰りする後継樹苗木

